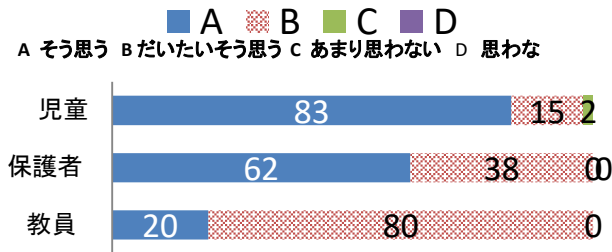


令和元年度学校評価調査集計結果と考察（12月）

鹿嶋市立中野西小学校

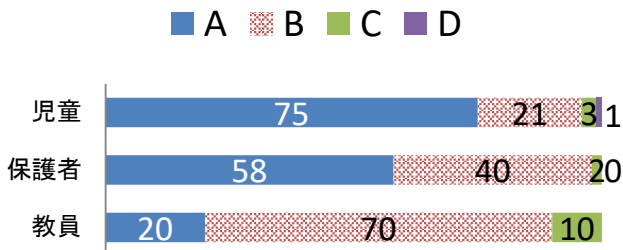
Q1 わかりやすい授業を行う (学力向上)



【 考察 】

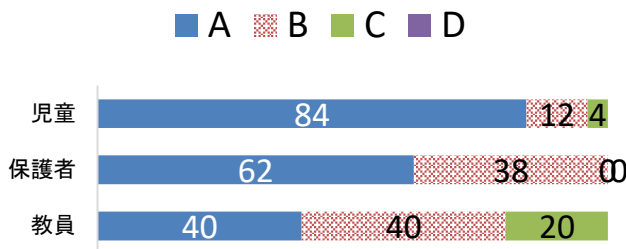
- ・児童A+B=98%を達成している。外部講師を招聘した授業改善(鹿嶋市小学校外国語指導力向上プロジェクト)の取組や、授業の相互参観、全校道徳の発問を全職員で考える研修等の取組により、わかりやすい授業を行うことができたと考えられる。
- ・保護者A+Bは、前回同様100%を達成した。
- ・職員A+B=100%で、Cが0%で減った。前回の学校評価の反省から、Cの数値を上げるため、教材研究や学習準備の時間を十分に確保し、学力向上に資する校内研修を実施するとともに、鹿嶋市小学校外国語指導力向上プロジェクトの取組を積極的に推進した成果と考えられる。

Q2 興味や意欲を高める授業を工夫している(学力向上)



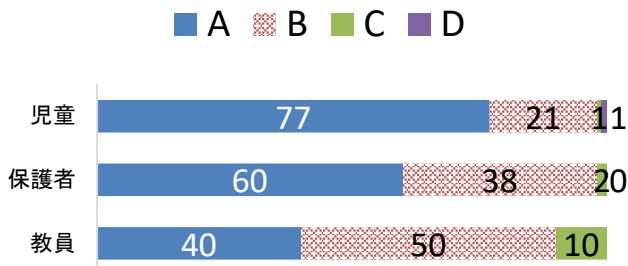
- ・児童A+B=96%を達成している。今後も児童の実態や地域の特性を踏まえた教材教具の準備を進めたり、生活との関連を図るなどしたりして意欲の向上を図りたい。
- ・保護者A+B=98%を達成している。今後は、学習における興味・関心を高めるため教材研究を充実させるのと同時に、取組を積極的に紹介していくことで更なる向上を図りたい。
- ・前回は職員A+B=78%であったが90%まで高まった。子どもの興味や意欲を高める授業の工夫に意欲的に取り組んだ成果だと考えられる。

Q3 一人一人に応じた学習の手助けをしている(学力向上)



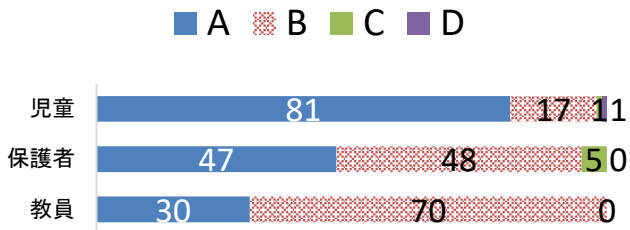
- ・児童A+Bは96%だった。今後も更なる向上をめざして、A・ALT、特別支援教育の充実等、全校体制で個への学習支援にあたることで充実を図りたい。
- ・保護者A+B=100%を達成している。今後も児童の個別支援の充実、学習状況に合わせた学習相談を実施していく。
- ・職員A+B=88%から80%に下がり、Cが20%に増えてしまった。一人一人に応じた学習の支援の方法について、全職員で検討し共有することで、より一層一人一人への支援の充実を図っていく必要がある。

Q4 一人一人を理解し大切にしている指導をしている(児童理解)



- ・児童A+B=98%を達成している。更なる向上のために、学校行事や特別活動、各教科の学習などで一人一人のよさを認め活躍できる場を意図的に設けていくことで向上を図りたい。
- ・保護者A+B=98%を達成している。今後、学校だよりやホームページを活用し、個のよさを認めた情報を積極的に保護者へ発信していくことで更なる向上を図りたい。
- ・職員A+B=90%であり、Cが10%である。より一層一人一人のよさを多面的に見て認め励まし伸ばすことができるよう努める。また、「いじめ生活アンケート」の結果を反映した指導や、教育相談活動の充実を図ることで児童理解に努めたい。

Q5 いじめなどのない楽しい学校・学級づくりに努めている (児童理解)

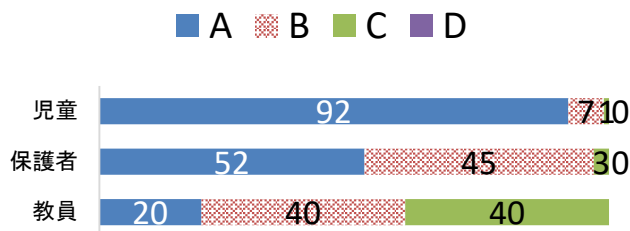


・児童A+B=98%であり、C+Dが2%である。「いじめ生活アンケート」の実践と結果をもとにした指導を図り、いじめの相談にのり担当が十分に寄り添うことや、休み時間等でもできる限り一緒に活動してきた成果と考えられる。また、人権集会では、いじめをテーマに実施したことで、全校を上げていじめに取り組む学校づくりを推進できた。

・保護者A+B=95%であり、Cが5%である。全校道徳等の取組や、認知したいじめの対応及び解消まで(3ヶ月を目安)にまめな情報提供、認知したいじめ解消(3ヶ月を目安)いじめ防止の取組に係る情報発信等により、学校の取組や姿勢の理解の向上を図りたい。

・前回の職員A+B=89%から100%を達成した。

Q6 生命を大切にする心、社会のルールを守る態度、郷土を理解する心を育む(豊かな心)

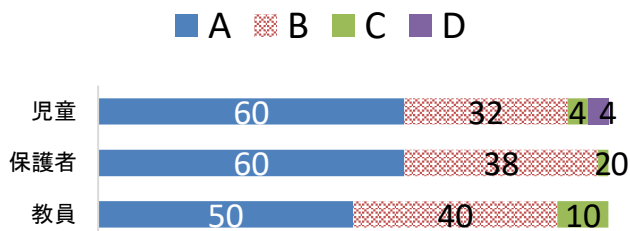


・児童A+B=99%を達成した。道徳や生活科・社会科・理科等を中心にねらいを明確にすることで心を育むことができたと考えられる。

・保護者A+B=97%を達成している。今後も「社会のルール・郷土理解」面では特に保護者や地域の方々との連携(地域連携本部会議・学校支援ボランティア等)を図りながら一層の向上を図りたい。

・前回、職員A+B=78%から60%に減少し、Cが22%から40%に増加した。今後、講師を招聘した性教育による生命を大切にする心、校外学習の際に社会のルールを守る実践、郷土カルタの取組による郷土理解の促進を図る。

Q7 面談や教育相談が充実し、相談しやすい(児童理解)

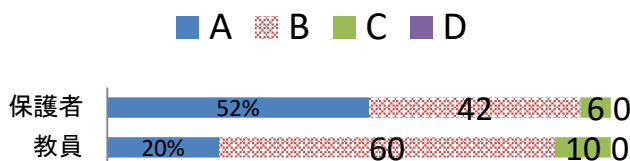


・児童A+B=92%であるが、C+Dが8%である。教育相談やカウンセリング等について情報発信するとともに、いつでも相談するように伝えていく。今後は、計画的にスクールカウンセラーの相談の充実を図る。

・保護者A+B=98%を達成している。今後もスクールカウンセラーとの教育相談の有効活用やいつでも相談できることをたより等で知らせ充実を図る。また、状況に応じて校外の専門相談機関等を紹介するなど連携を図る。

・職員A+B=は前回、今回ともに90%を達成した。BやCと回答した職員が変わるために、業務改善の取組により、ゆとりをもって児童とコミュニケーションを図ることができる環境づくりが必要である。

Q8 保護者や地域の願いに応えようとしている(地域連携)

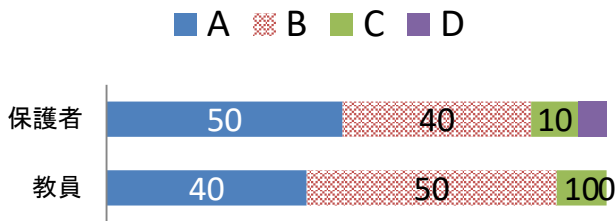


・保護者A+B=94%を達成している。地域連携本部会議や学級懇談、各種アンケートをもとに保護者や地域の方々の願いを聴取し、改善のための具体策を内外共に明確に示したうえで実践化を図ってきた結果と考えられる。

・前回、職員A+B=55%から80%に伸ばすことができた。

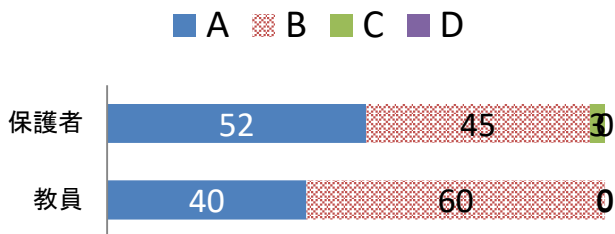
・今後、保護者や地域の方、団体等と協力しながら、中西フェスや地域で開催されるイベントを実施することで、地域の教育力を学校に反映できる仕組みづくりを推進する。

Q9 家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている(地域連携)



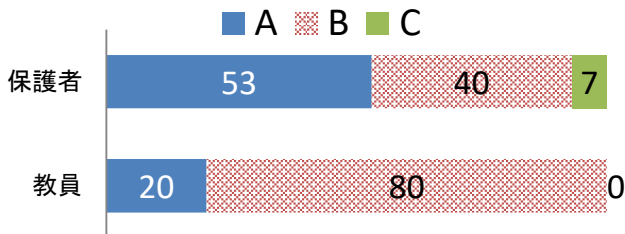
・保護者A+B=90%を達成している。各種たより、不審者情報等の迅速なメール配信、ホームページの更新の充実に努めた結果と考えられる。今後も学校の情報を提供していくことで地域から信頼される学校づくりを推進する。
 ・前回の職員A+B=77%の反省をもとに、保護者との面談と取り入れ、ホームページの更新を定期的に行ったことで、90%まで高めることができた。

Q10 健康・安全教育を積極的に取り組んでいる(健康教育)



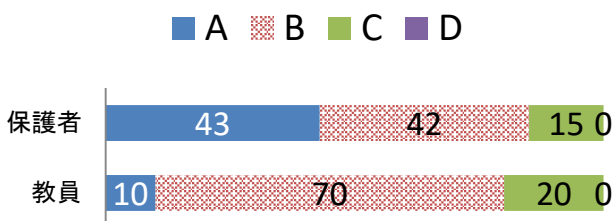
・保護者A+B=97%を達成した。学校保健委員会や安全指導、110番の家との連携、健康教育に積極的に取り組んできた成果と考えられる。今後も地域や保護者との連携を大切にしたりしていくことで更なる充実を図る。
 ・前回、今回ともに、職員A+B=100%を達成している。今後は、現在取り組んでいる歯みがき指導や食育指導の他、健康・安全教育のあり方について検討し、ねらいに沿った実践的な取組を図っていく。

Q11 教育活動を積極的に公開している(地域連携)



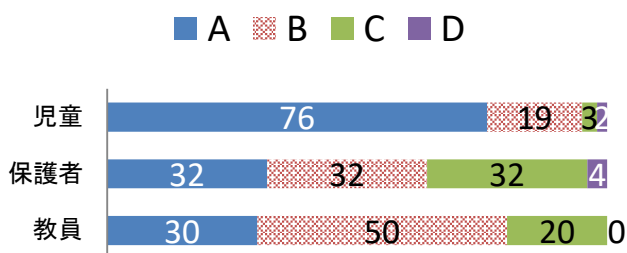
・保護者A+B=93%を達成している。学校行事・学級の取組の公開の仕方について検討し改善した結果と考えられる。
 ・前回、職員A+B=88%から100%に高まった。前回の反省をもとに、ホームページの更新に力を入れたことや、中西フェスティバルや市音楽会等に保護者や地域の方に参加を促したことで、職員の達成感が高まったと考えられる。

Q12 地域の環境や人材が教育活動に生かされている(地域連携)



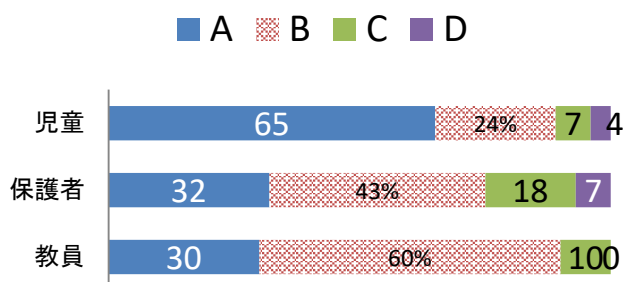
・保護者A+B=92%を達成している。現在、保護者や様々な団体、地域の方がそれぞれ中野西小の教育活動に協力してくださっている。今後、これらの方々と教員とで、地域の環境や人材を教育活動にどう生かしていくか、考えなくては取り組む必要がある。
 ・職員A+B=80%である。合唱指導や読み聞かせによる人材の活用、近隣にある特別支援学校という環境を生かし、教育活動を充実させることができた。

Q13 宿題の他に予習や復習をしている(学力向上)



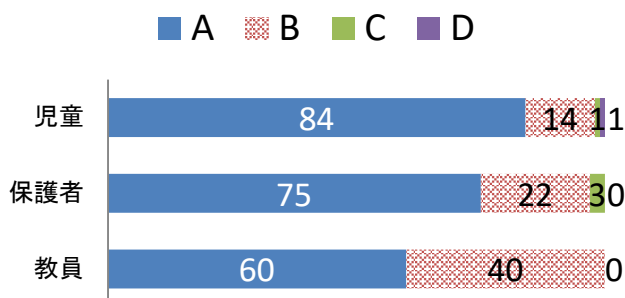
・前回の児童A+B=84%から95%に高まった。担任から自主学習の仕方を教えたり、模範となるやり方を掲示することで、自主学習への習慣づけを図ってきた成果と考えられる。
 ・保護者A+B=64%で、C+D=36%であり、前回から変化が見られない。このことから、保護者に宿題や予習復習の取組状況をお知らせしたり、学級懇談で話題にすることで、学校での取組を広報する必要がある。
 ・職員A+B=78%から80%であった。

Q14 あいさつはよくできている(豊かな心)



・児童A+B=89%を達成している。今後も、各委員会や学級での活動等で児童主体のあいさつができるように働きかける。また、保護者や地域の方々や児童相互にあいさつが自然にできるように働きかけていく。
 ・保護者A+B=75%となっている。C+Dが25%なので、家庭でのあいさつの推進など保護者や地域の方々と一緒に取り組むことができるように各種たよりや地域連携会議、ホームページ等を活用して協力をお願いしていく。
 ・前回の職員A+B=100%から90%に下がった。年間を通して、地域の方のあいさつがあり、学校でも指導しているが、どんな場でも誰にでも元気にあいさつができるよう、声かけを行っていく。

Q15 笑顔で楽しい学校生活を過ごしている(豊かな心)



・児童A+B=98%を達成している。学び合いを通し、学習の充実感を味わえる授業を実践したことや、望ましい学級づくりのため、学校行事や学級・縦割り班活動など集団活動において一人一人の個性を伸ばし、充実感を味わわせるとともに、集団の一員として所属感を高められるよう、また、人間関係づくりが円滑にできるよう、支援してきた結果だと考えられる。
 ・保護者A+B=97%を達成している。今後も一人一人のよさが認められ楽しく活動する場を積極的に紹介(ブログ・学級だより・学校だより等)していく。
 ・前回の職員A+B=100%から90%に落としている。今後も児童・保護者との積極的コミュニケーション、相談活動・道徳教育の充実、自己存在感のある学級づくり、わかる授業を展開することで楽しい学級・学校づくりを推進する。

【○保護者からの意見 ◆学校の対応】

○通知表の総合所見

2学期の所見について、所見に記載する内容を、面談に来た保護者に伝えることになったが、これだと面談に来た人しか分からないため、後から読み返すことができない。このことから、所見は学期ごと記載してほしい。また、今回の変更は、県や市からの要請なのか、他の学校はどうなっているのかについて、教えて欲しい。

◆通知表についてですが、実は、通知表は作る義務はない、というと驚かれると思います。法律等の根拠がありませんので、県や市から通知表について何かを要請されることはありません。では、何故通知表を作成しているのかといえば、1学期ごと児童の頑張りや課題について、本人や保護者に伝えることで、その後の生活や勉強などをがんばってもらうためです。そのため、通知表の様式や伝え方も、各学校で工夫を凝らしています。これらのことから、本校では、

①保護者に面談を通して学校の様子をお伝えし、お伝えした内容を子供に伝えていただきながら、賞賛や励ましをしていただきたい。

②学校行事を通して、保護者の目でお子さんの学校の様子を知っていただきたい。

③教師側として、学期末の事務処理に追われず、子供に寄り添った指導をしっかりとしたい。

という思いがあり、2学期の面談によって所見と代えさせていただいた次第です。また、最近では所見を4行程度にしたり、2学期の所見をなくしたりする学校も増えてきています。ただ、保護者のご意見ということですので、所見の記載については、今後さらに保護者の皆様からのご意見を参考にしながら、通知表での伝え方について、検討する必要があると考えております。

○宿泊学習や遠足、社会科見学など、校外の活動がある時には、ホームページにもう少し写真があるとうれしいです。(送り出した後に、元気で楽しく活動できているか心配なので)

◆子供が学校を離れ、どんな様子で活動しているかについては、緊急連絡メールで、児童の様子をリアルタイムで伝えることも考えられます。なお、不特定多数が見ることができるホームページに、リアルタイムで写真をアップすることにつきましては、児童がいる場所が特定される等、安全管理上の問題があるため、控えているところです。ご理解のほど、よろしく願いいたします。また、事後になってしまいますが、子供の活動の様子を写真を増やしてホームページにアップすることは可能ですので、今後心がけてまいります。